

平成 20 年度事業計画

平成 19 年度本会の活動は、会員各位の弛まざる努力と熱意によって、ほぼ例年と同様な成果を挙げることができた。平成 20 年度も各事業をさらに充実発展させ、本会の運営を着実に執行してゆきたい。とくに、論文誌「Journal of Oleo Science」の国際誌としての評価を確実なものとし、また、「オレオサイエンス」誌を学会と会員を繋ぐ媒体として機能を高めてゆきたい。出版事業の一環として、フレッシュマンセミナー向けの教本の改訂、油化学便覧の改訂も進めたい。本会最大のイベントである年会、各専門部会・若手の会・各支部が主催する講演会やセミナー、(財)油脂工業会館との共催の地区講演会、フレッシュマンセミナー、マスターズクラブ等の各種企画などをさらに成熟させてゆきたい。平成 19 年度に創設された JOCS フェロー表彰制度も含め、各種表彰制度の充実も図りたい。昨年 5 月の JOCS・AOCS・ISF/Joint World Congress(カナダ、ケベック市)で、2011 年の ISF を日本で開催されることが決まった。20 年度は、その準備に向けて 2011/ISF 組織委員会を立ち上げ、今後の国際交流に係わるアクションプランを作成したい。また、様々な形で本会の広報・啓発活動を推進するとともに、“JOCS の未来マスタープラン(構想)”を作成したい。広報活動の要である HP、とくに国際化を視野に入れた英語版の充実を図りたい。公益法人制度三法に対しても、注意深く、遺漏の無いように対応したい。

1 会務

1.1 総会

第 54 回通常総会を平成 20 年 3 月 31 日、油脂工業会館で開催する。平成 19 年度事業報告および収支報告、平成 20 年度事業計画案、収支予算案等を審議し、平成 20 年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会および表彰式を開催し、日本油化学会名誉会員およびフェローの推戴、功績賞および平成 19 年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。つづいて講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成 20 年度理事会の開催予定数は 5 回。平成 20 年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成 20 年度一般会計・特別会計決算案および平成 21 年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、会員の表彰に関する規定の見直しを行うほか、ホームページ委員会による HP の充実をサポートする。財務委員会は、臨時に設置した会員増強委員会と連携して財政基盤の健全化に努める。企画・部会統括委員会は、アドバンスセミナーの実施と新規専門部会の設立を進める。規格試験法委員会は、基準油脂分析試験法の英文版の刊行と試験法セミナーの実施を行う。

また、20 年度は、常設の委員会のほかに、改訂第 2 版編集委員会により「油脂・脂質の基礎と応用」、「界面と界面活性剤」のそれぞれの編集および「近未来計画」作成のためにワーキンググループを発足する。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第9回を迎えるフレッシュマンセミナーは、5月には『油脂と脂質』について、6月には『界面科学と界面活性剤』についてそれぞれ開催し、日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。11月には第8回基準油脂分析試験法セミナーと第6回界面活性剤評価・試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の定着を図る。このほか、新たに企業中堅社員向けにアドバンスセミナー（仮称）を実施する予定である。

また、教本「油脂・脂質の基礎と応用」および「界面と界面活性剤」の改訂版の発行に向けて準備を進める。

2.2 支部活動

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催するが、支部の特徴を生かす工夫をしたい。また、支部活動の一環である地区講演会（油脂工業会館共催）は、八王子市（関東支部）、上田市（東海支部）、京都市と香川県三木町（関西支部）の4ヶ所で開催する予定である。油化学の視点から市民を対象にした啓発活動を積極的に取り入れてゆきたい。

なお、京都市での地区講演会は、AOCs 専門部会（食品の構造と機能）とのジョイントシンポジウムとして位置づけている。

2.3 専門部会活動

専門部会については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会およびオレオナノサイエンス部会の6部会体制での運営を継続する。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化を図る。油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性を意識し部会活動の活性化を図ると共に、独立採算制による活動基盤の強化に努める。

2.4 会誌

学術論文誌「Journal of Oleo Science (JOS)」と会員誌「オレオサイエンス」を各12号発行する。「JOS」は「Preface」および「編集委員会より」の記事等を通して、会員ならびに国内外研究者からの積極的な投稿を募り、また、2008年1月からJ-Stageのオンライン投稿審査システムの試行を開始して、12月以降の本格導入を目指すなど、一層の充実を図る。インパクトファクターの取得にむけ、引用率の向上に努める。「オレオサイエンス」は、動物脂肪や飽和脂肪酸の脂質代謝へのかかわりに関する中特集などの特集企画9件および総説3件を各号に掲載し、さらに文献抄録および国際油脂情報等の充実、二色刷りの部分的採用、会員や編集委員の参画・参加等を推進するなど、魅力ある会誌づくりに努める。

2.5 日本油化学会年会

平成20年度第47回年会は、秋久俊博実行委員長（日本大学理工学部）のもと、日本大学理工学部駿河台キャンパスにおいて、9月17日（水）-19日（金）に開催する。受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、専門部会主催のランチオンシンポジウム等を行う。また、会期中にインド、マリ共和国、日本から4名の講師を招待しての特別講演会とともに、JOCs-OITA I (Oil Technologists' Association of India) ジョイントシンポジウムを開催する。